

新年度事業計画が満場一致で承認

大旦集会所で定期総会開催 二月八日

会員皆様との連携を深め 助け合いを
意識した明るい町づくりの推進を！



大槻研司町会長挨拶

令和八年度大旦町会定期総会を、大旦集会所で開催しました。最初は大槻研司町会長から、この一年の事業に対する協力について、お礼の言葉がありました。続いて来賓挨拶として萩原太郎市議員から、東部地区に関わる今後の動きについて報告がありました。



萩原太郎市議員挨拶

各担当から昨年度の活動と会計報告がありました。引き続き新年度の事業計画案及び予算案について提案され、協議の結果満場一致で承認されました。また、今総会では役員改選があり、下記の方々が今後二年間町会業務を執行することになりました。総会終了後、役員と代議員合同の交流会を開き、長い間活躍された齋藤裕信前



大波健治議長

議長に第一八班の大波健治さんが選出され、議事に入りました。



長い間ご苦勞様でした

会計、佐川祐介前体育部長に対し花束が贈られ、参加者から大きな感謝の拍手が送られました。

新役員紹介



副会長 鳴原 一雄 (再任)



副会長 齋藤 浩二 (再任)



副会長 鳴原 輝実 (新任)



会長 大槻 研司 (再任)



衛生副部長 清野 広之 (新任)



衛生部長 小賀坂 孝男 (再任)



体育副部長 渡邊 千秋 (新任)



体育副部長 小林 隆佑 (新任)



体育部長 渡辺 昌広 (新任)



総務部長 原田 道久 (再任)



会計 鈴木 治 (新任)



新班長と役員との合同会議を二月十三日に開き、総会後の当面する事業の取り組みについて確認しました。

1. 町会費の徴収
2. 市民交通災害共済
3. 文書・回覧の届け日
4. ごみ処理の課題

新班長・役員
合同会議開く



監事 井上 (再任)



監事 齋藤 (再任)

※育成部の役員は、別途少年会総会で選出されることになっています。

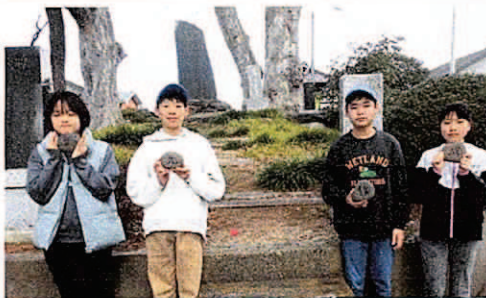
中学校で沢山お友達をつくってね！

「6年生を送る会」で別れを惜しむ

育成部恒例の行事である「6年生を送る会」を、三月七日大旦集会所で開催し、多くの子ども達も参加しました。卒業生に対して佐々木體育成部長と大槻研司町会長から、お祝いと激励の挨拶がありました。大壇愛宕神社氏子の齋藤敏正会長から、大旦の歴史について学びました。各卒業生に自分の好きな漢字一文字を大きな石に書いてもらい、経塚にある樺の木の本根に埋納しました。卒業生には記念品



が贈られ、それぞれから下級生に対するお礼と、中学生としての決意が話されました。沢山友達をつくり、楽しい中学校生活をおくってください！



それぞれ「皆」「光」「信」「成」と好きな1文字を書き埋納しました。

ふくしん「こども応援賞」桜鼓会が受賞

一月二四日福島信用金庫が募集していた、ふくしん「こども応援賞」に、日常生活が評価された「大壇桜鼓会」が敢闘賞に選ばれ、福島信用金庫本店において表彰状と金一封が贈られました。



ゴミステーション対策会議で改善策を協議

多くのゴミステーションにおける搬出曜日の間違いや、正しく分別されていないゴミが引き取りされないため散乱が酷く、著しく美観を損ねている状況が続いています。

そこで、町会では二月二日を皮切りに、改善に向けた三度の対策会議を開きました。対策会議では、現在のゴミステーションの問題点を確認し、その改善点を話し合い、その結果を役員会に報告し、さらに協議を重ねました。

その結論については三月二二日に臨時班長会議を開いて報告し、疑問点を説明した後、各会員宛に「ゴミST確認当番の変更お知らせ」を



配布することになりました。また、残留物があるゴミSTについては、毎月一回その整理作業についてお願いすることにいたしますので、ご協力を宜しく願います。町会として少しずつでもゴミSTとその周辺が綺麗になるよう、努力していきたいと思えます。

桜まつり実行委員会開く
今年の桜まつりは四月四日～五日の開催と決まり、三度の実行委員会、具体的な進め方について協議しました。今年も「山木屋太鼓」と「方木田稻荷太鼓」の友情演奏が決まり、町会員の皆さんに楽しんでもらえるよう、実行委員一同頑張ることとしました。



コラム

過去の自分を責めない

昨年一月十七日付け民報新聞の「サロン」欄に「過去の自分を責めない」と題した随筆が載っていた。

自分もそうだが、この歳まで生きてくる途中には、どちらに進めば良いのか迷う時が何度もあり、その度に悩み、考えてその進む方向を決めなければならなかった。しかし、それが正しかったのか誤っていたのかはすぐに結論は出ない。何十年も経ってから振り返った結果「その時に下した判断は間違いなかった」と初めて分かる。あの時あの決断をしたから今の自分があるのだと、自分が下した決断に納得する。そしてサロンの筆者はこう述べている。『その時に下した判断は、その時の自分の思いや感情を最大限に尊重しているのです。今になって思えば：とか、冷静になって考えてみれば：と思う必要はないのです。その日その時の自分が感じていた喜び、怒り、悲しみが複雑に混ざり合った結果生まれた判断なのです。だから、その時の判断が一番正しいに決まっています』と。

私も自分の岐路で下した決断は正しかったんだと思うことにしている。【齋藤 馨】

